

# 赤潮情報（５）

令和６年７月２６日

各漁業協同組合長 殿

福岡県水産海洋技術センター  
豊前海研究所長

7月25, 26日に全域調査を行った結果、有害プランクトンのカレニア ミキモトイによる赤潮が継続しています。また着色域では6,000細胞を超えている場所があります。

魚介類によってはへい死の恐れがありますので、漁獲物の港内での蓄養は避け、早めの出荷を心がけてください。また変色域付近ではスカッパを閉めて航行するなど、活け間の魚の状態にも注意してください。

## <有害プランクトンの状況>

○カレニア ミキモトイの1mlあたりの最大密度は6,240細胞でした。

- ・ 沓尾漁港や宇島港、吉富漁港、豊前市沿岸域でカレニア ミキモトイの赤潮による着色が認められました。
- ・ 本種は、海水1mlあたり数千細胞で魚介類に被害を及ぼします。
- ・ また、増殖初期は中層で増殖する性質を持っているので、海面からの観察では着色が判別しにくい種類です。

○シャットネラ属の1mlあたりの最大密度は1細胞でした。

- ・ 宇島地先の5m層でのみ確認されました。

## <今後の対応>

○研究所では引き続き調査を実施しますので、今後の情報にご注意下さい。

※漁業被害、海面の着色などがみられましたら、

豊前海研究所(0979-82-2151、担当:恵崎、増田)までご連絡下さい。

# 漁場調査結果

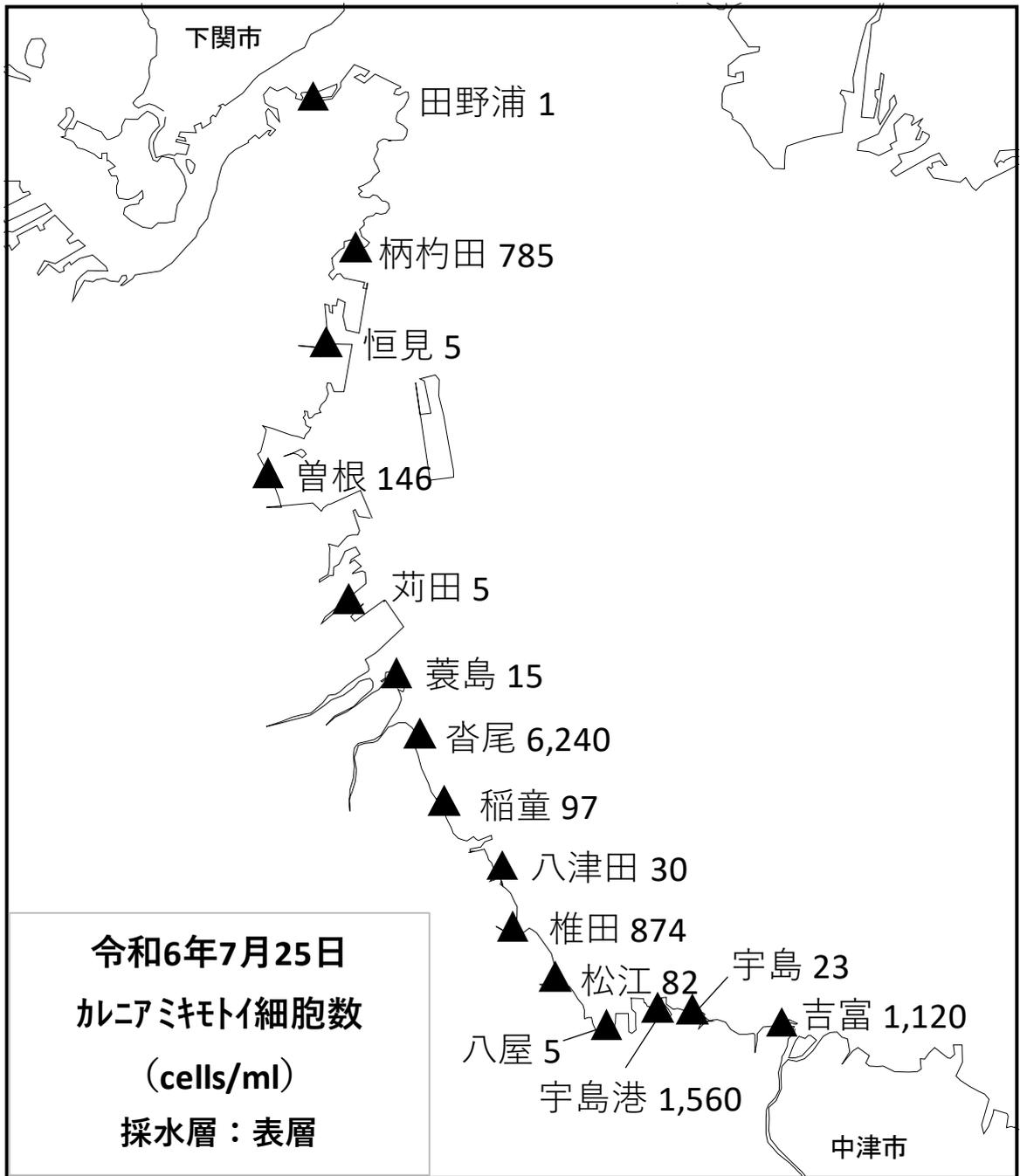


図1 カレニア ミキモトイの漁港域の細胞数

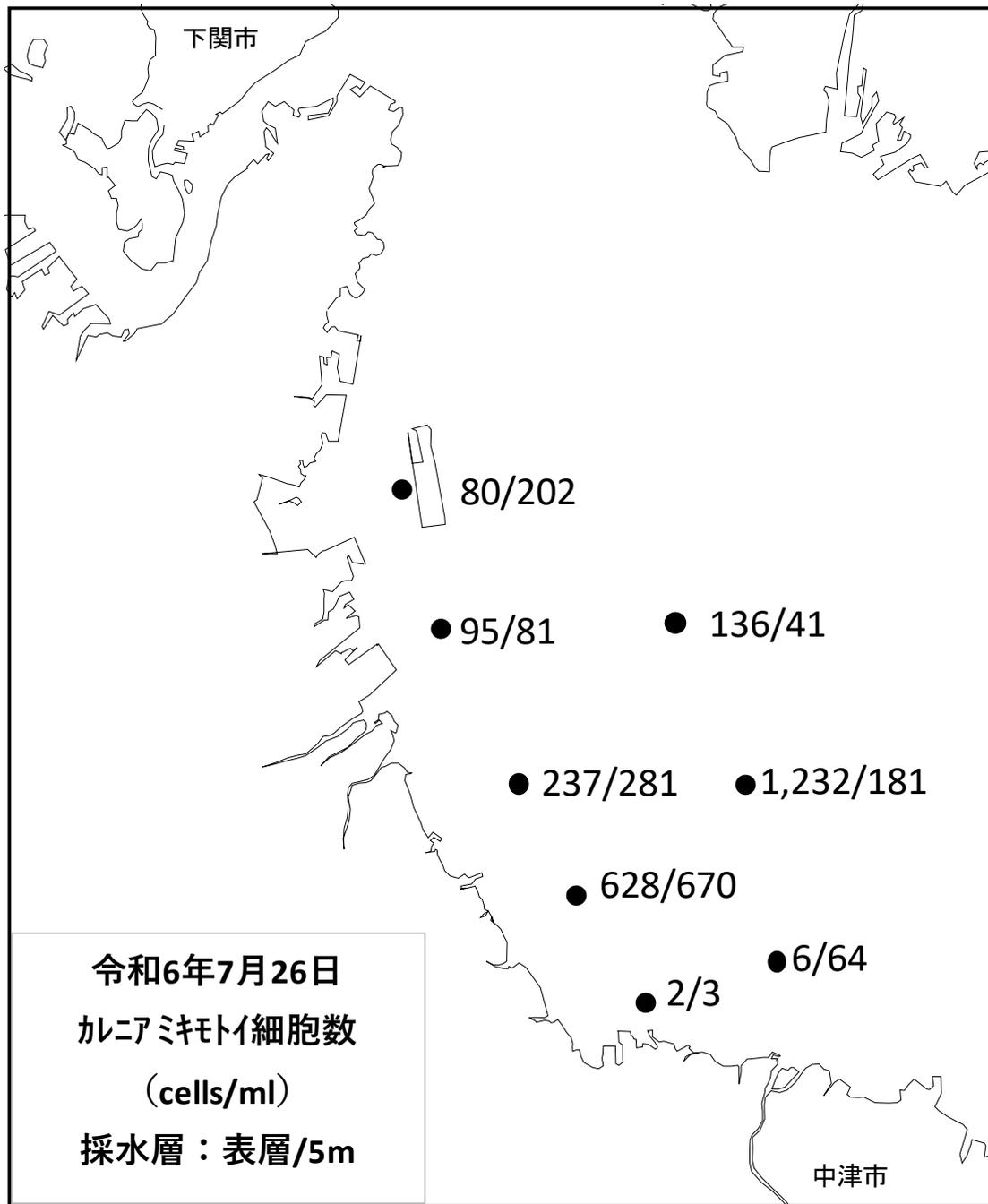


図2 カレニア ミキモトイの沿岸域の細胞数